

Pilsbry, Proc. Acad. Nat. Sci. Phila., 53, p. 564.

本種の幼殻と思われる個体が山頂で1個体採集せられた。北陸・近畿北部に分布する。

15. *Euhadra sandai daisenica* Kuroda

ダイセンニシキマイマイ

1931 *Euhadra senckenbergiana daisenica* Kuroda, Venns, 3 (1), p. 52, figs. 10, 11, 12 (産地: 伯耆大山) この地方型は伊吹山地方に分布するコガネマイマイ *E. sandai* (Kobelt) に、京都地方に分布する地方型ニシキマイマイ *E. s. kuramana* Kuroda et Teramachi を通じて連続的に推移する。これまでに知られるダイセンニシキマイマイの産地は大山、三徳山等中国山脉である。扇山の個体は螺塔が多少高まり、螺管太く、殻表に著しい火焰彩があり模式的である。山頂のブナ林で死殻を少数を得た。成殻は殻高 28.3mm., 殻径 46.8mm., 螺層 6 階であつた。

なお居組海岸にはこの型で黄色の殻皮を有する平地型が分布する。その1個体は殻高 27.9mm., 殻径 42.6mm., 螺層 6 階であつた。

中国地方に分布するイズモマイマイ *E. idzumonis* (Pilsbry et Gulick) は本種に近似するがピロード様の殻皮をかむり、臍孔が急で深い。

16. *Euhadra amaliae* (Kobelt) クチベニマイマイ

1875 *Helix amaliae* (Kobelt), Nachr. D. Malak. Ges., 7, p. 55.

1876 *Helix nipponensis* Kobelt, Jahrb. D. Malak. Ges., 3, p. 31, pl. 1, fig 2

1878 *Helix (Camaena) congener* Smith, Proc. Zool. Soc. London, p. 105.

1940 *Euhadra callizorda amaliae* Azuma et Habe, Hakubutsu, 2, (1) p. 23, pl. 3, figs. 20, 21.

1949 *Euhadra amaliae* Kuroda et Habe, Kataksumuri, p. 80, figs 59, 60

本種は中部・近畿中国岡山に分布する。扇山の山麓でも少くない。その中の1成殻は甚だ特異な色帯畸形で0 2 3 4の色帯の外に多くの細い褐色帯が4階よりはじまる。殻高32.0mm. 殻径20.0mm., 螺層6階である。

但馬陸貝相の概要

今回の扇山の採集品によつて、但馬地方の陸貝相の特徴を見ると、全国に広く分布する種を除くと、A. 北陸及び近畿北部から中国地方に分布する種が陸貝相の主体をなしている。そして、B. 中国地方に広く分布する種はここまで分布が及んでいないようである。

A. の例:

ハゲギセル・シリオレットノサマギセル・ヤマタカマイマイ・オオケマイマイ・コオトメマイマイ・コガネマイマイ (変種を含む)・クチベニマイマイ・ツルガマイマイ (コウロマイマイを含む)。

B. の例:

サンインマイマイ・イズモマイマイ・セトウチマイマイ・サンインコベソマイマイ。

Bの中に含まれる諸種の分布の東端を精査するため、但馬の同好諸氏の一層精密な調査を期待する。

神戸層群とその植物群

鹿 間 時 夫

神戸層群とは明石海峡附近に発達する第三紀層に対して著者の与えた名称である。この層群は岩屋層、丸山層、多井畑層、白川層、多井畑化石層等に分れ、岩屋層は淡路島北部に分布し、浅海性の化石に富む砂岩の勝つた地層であり、他は明石海峡の北岸に分布する。その中、白川層は極めて豊富な植物化石層を多数含み、その層的研究は相当重要な意味を有するので、著者はこれについて研究し、次の如く発表した。

(1) 神戸層群は淡路北部 (岩屋層) と神戸市附近。主として藍那台地 (多井畑層、丸山層、白川層、多井畑化石層) に分布し、岩屋層は海成、多井畑層、多井畑化石層は一部海成、他は陸成で植物化石に富む。各層は断層によつて接する。

(2) この層群は先ず第三系と不整合、断層によつて接し、播磨層群により不整合に被覆される。多井

畑層、岩屋層は塊状砂岩を主とし、白川層には凝灰岩、礫岩が著しい。

(3) 白川層には九帯以上の植物化石帯があり、その包含する植物化石小群の性質が互に少しずつ漸移する上、中、下に3分される。

(4) 白川層植物化石群は時代的に小国、鍋音沢両植物群よりもやや新しく、上部は根ノ白石植物群と同時、またはそれよりも古く大部は塩釜、槻木、棚倉、延日等の植物群と合致し、大約中上部中新世より最下部鮮新世に亘るものの様である。

(5) 白川層植物群は暖帯林の気候を示し、その下部より上部に行くにつれて次第に暖帯から温帯への気候変遷を示す様である。

(地質学雑誌、539号より抄録、詳細は同誌を参照して下さい。室井紳)